

福貿ニュース

福岡貿易会情報誌



第43号

ミャンマー ミッション報告

2017.10.29~11.1

押野真基朗

YANGON



一昨年12月に福岡市とヤンゴン市は姉妹都市となつて以降初めての福岡市の経済団として、昨年の10月29日～11月1日に福岡貿易会ミャンマー経済視察団を派遣し、ヤンゴン各所への視察を行った。本多機工(株)龍造寺社長を団長とし、行程による出入りもあるが最大50名弱の規模の団となった。業種は様々、まずはミャンマーがどういうところが視察しようという企業もあれば、もう既にミャンマーでビジネスを行なっている企業など、ミャンマーへの馴染み度合も様々である。

Day1-1：ティラワSEZ

まず最初はヤンゴン郊外のティラワSEZ(経済特区)の視察である。ティラワSEZは、日本政府がODAを出資し、日本の大手商社3社(住友商事、三菱商事、丸紅)が現地合弁で特別目的会社MJTD社(ミャンマーティラワジャパディベロップメント)を設立し、開発、管理を行なっている。

第一期工事のうち、ZoneAの販売が開始されており、既にそのほとんどが操業を開始しているか、もしくは契約済みという状況である。まだインフラが未整備なミャンマーにおいて、電力、上下工業水道などの生産に必要な設備が整う工業団地は企業にとって魅力的であり、特に大規模な生産拠点を構えようとする企業にとっての進出先は、現在のところこのティラワSEZ一択といっても過言ではないのではないだろうか。またSEZ内にミャンマー政府のワンストップサービスセンターも拠点を構え、法人設立や投資申請などの手続きが迅速に完了できるような環境が整えられつつあり、今後もヤンゴン中心部と経済特区を結ぶ道路の整備も進む予定である。



開発が進むティラワ経済特区の様子

またSEZにはTGL社(ティラワグローバルロジスティクス)をはじめ、いくつかの物流企業も入居する。隣接するティラワ港はヤンゴン都心に隣接するヤンゴン港にかわり、ヤンゴン管区の海上物流の中心的役割を担いつつある。ヤンゴン港は水深が浅く重量船などの入港が難しいが、ティラワ港であれば10mほどの水深があり、より広い役割が担えるものと期待されている。このようにこのティラワSEZがヤンゴン地区の物流の中心となる準備が進められている。

今回Zone-Aや港湾施設の見学を行ったが、電機・繊維・食品など日本の大手企業を含め、既に数多くの工場が建設されている。物流トラックがまだ少ないことを見ると、本格稼働はもう少し先、ということも多いようだが、着々と開発が進んでいるようだ。また今回入居企業である王子製紙殿の工場も視察し、やはり本格稼働はこれからとのことであるが、4ha以上の広大な工場に大規模な最新生産設備が並んでおり、企業側のこのSEZでの生産に力を入れていることがわかる。



経済特区を訪問の皆さん

Day1-2：タンリン工科大学

またティラワSEZに隣接する大学であるタンリン工科大学の視察も併せて実施した。本大学は1986年に設立され、9つの学部を有するミャンマーを代表する工科大学である。4700人の学生が在籍しており、ティラワSEZに隣接することもあり、SEZへの人材輩出拠点としても注目されている。我々団員はテイニング学長をはじめ、先生方に歓迎をいただき、タンリン工科大学と日本企業をつなぎ協力していこうという期待の元、当団員からの質問も尽きないほど活発に意見交換がなされた。前述の通りティラワSEZへの人材輩出が期待されていることから、日本政府も本大学で「日本ものづくり講座」を開講するなど、人材への投資に力を入れており、学んだ学生達が日本・ミャンマーの架け橋になってくれることが期待される。

Day2-1：若手経営者との意見交換会

2日目は、今回の団員でもある（株）ユウシステム入江社長のご尽力によりヤンゴンの第一線で活躍する経営者・企業人の方々をお招きし、団員との意見交換を開催した。広告業や税理士法人、人材、物流など多岐に渡る業種の5名の方々に来て頂いた。表面上と実際に事業をしている方の苦勞は、当然であるが、違うようだ。日系大手企業が進出し、ミャンマーでの日本企業の存在感は相当大きいように見えるが現地人材獲得の場においては全く違うそうである。欧米系やミャンマー国内財閥系企業と比べ、まず賃金面において日



タンリン工科大学を訪問



テイニング学長をはじめ、大学関係者と交流



ミャンマー政府機関を表敬訪問

系企業のアドバンテージは全くといっていいほど無いそうだ。そういった苦勞や現実を聞きながら、なおも第一線で活躍されている日本人の方々との意見交換の場は生の声、大変貴重な機会である。

また視察中感じたことだが、ミャンマーで活躍されている経営者・ビジネスマンの方々には日本人同士の横のつながりも非常に大切にされている。未整備などところも多いこのミャンマーにおいてお互いにある面で協力していくことは非常に重要である。それは今後進出を考える企業にとっても同じことであろう。ヤンゴンにおける日本人組織の規模も徐々に大きくなってきているようで、今後も継続的に接点つくっていくことは、福岡とミャンマーを更に有機的に結びつける環境づくりとなることと思う。

Day2-2:ヤンゴン地域政府 (YCDC)、在ミャンマー日本大使館訪問

本団の一部は福岡市高島市長とともにヤンゴン地域政府 (YCDC) 及び日本大使館を訪問した。YCDCではヤンゴン市マウン・マウン・ソー市長をはじめ、ミャンマー政府要人の方の歓迎を受け、会談では龍造寺団長が率先してミャンマー側関係者とのコミュニケーションをとりながら、お互いに福岡とヤンゴンの将来に期待を寄せた。

日本大使館では樋口全権大使とお会いし、日本とミャンマーの関係、また懸念されるロヒンギヤ問題など、大使の熱心なお話しの、団員一同感銘を受けた。

Day2-3：ジェットロブリーフィング・進出福岡企業による講演 (DAIICHI ASIA社)

併せてジェットロヤンゴン事務所 山岡所長そして第一交通産業グループのミャンマーでの拠点であるDAIICHI ASIAの高柴社長からお話を聞くこともできた。ジェットロヤンゴン事務所は全世界のジェットロ事務所中で、現在1,2を争う来訪者数だそうで、それだけ多くの企業がミャンマーに熱い視線を送っていることが分かる。一方でまだまだ法律やインフラなども未整備な中、「ジェットロがある」ということは進出企業にとっては非常に心強い。ブリーフィングでは、最近のミャンマーの経済状況はあまり良くはないということであるが、投資も集まり整備が進む中

で、今後はこの変革の動きは「止められない」つまり今後のビジネスの見通しは明るい、ようである。ミャンマーは、20年前はベトナムとあまり変わらない経済水準であったが、現在は両国にかなりの差ができてきている。今後ミャンマーはベトナムと同水準かそれ以上を目指し、今後成長が続く見通しとのことである。

DAIICHI ASIA高柴社長からは、海外経験豊富なご自身も手こずる(?)ミャンマー人部下のエピソードなどを交えつつ、ミャンマー人の特性を踏まえたビジネスについて手ほどきを頂いた。北九州が本拠地である同社は門司にあるパゴダの補修支援をきっかけにミャンマーに進出し、今ではハイヤー・自動車整備以外に海産物の養殖など展開を行っている。ミャンマー人の性格をみて、柔軟に、そしてチャンスがあれば既存分野にとらわれない事業をこの地で展開されている同社ならではの興味深いお話しに団員一同聞き入った。

Day2-3：福岡・ヤンゴン姉妹都市交流会

さて今回の視察のメインイベントはこの姉妹都市交流会であり、福岡、ヤンゴン、また日本大使館やミャンマー政府関係者をはじめ、ミャンマー企業経営者や現地日系企業関係者など総勢130名以上が出席した。福岡市 高島市長、ヤンゴン市 マウン・マウン・ソー市長、そして当団の龍造寺団長からお互いに両市の関係の更なる発展を期待する挨拶がなされた。会中非常に印象的だったのは、出席していたミャンマー側企業は食事そっちのけで、日本企業との出会いを求めて終始動き回っていたことである。その意欲的な動きに感心するとともに、凄まじい発展の最中にある彼らの自信のようなものを感じる。中には交流会後も面談を実施したりする企業もあり、更なる支援を行っていききたい。

Day3：ミャンマー人材

団員の業種が多岐にわたる中で、要望の多かった人材についても焦点をあてて視察を実施した。まずはジェイサットコンサルティング社。代表取締役西垣社長は20年以上前からミャンマーで事業を行い、同社は



福岡・ヤンゴン両市長はじめ、多くの関係者が出席



経済交流会の様子

現在人材を中心に事業を展開している。ミャンマーブームの折、人材以外にも進出相談など多数あるそうだが、やはりミャンマーで継続的に事業を行っていくためには、人材マネジメントは欠かせない要素である。ミャンマー人採用において日本語N1～2レベルのスタッフであれば900ドル/月程の給与が必要で、まして管理ができる人材となると採用は困難を極める。しかし、ミャンマー人は真面目(視察中も終始感じたが)でスキルアップにも熱心ということで、それらの特性を生かしつつ、報酬体系も検討することなど慎重に人材管理を進める必要があるようだ。

また2つ目としてミャンマーへの技能実習生の送り出しを行っているミャンマー企業を視察し、実際に送り出し教育の現場を見せて頂いた。全員が間もなく日本へ渡航することによって、日本語もある程度は話することができる。皆、日本での生活が楽しみで溜まらない様子が印象的だった。これら実習生の受け入れ先は就業時間や安全管理の徹底、また受入側にミャンマー人の女性スタッフを配置して実習生をフォローするなど受入に工夫を行っているようだ。企業側からみると、受入はまずは人材不足解消の選択肢ではあるが、同時に実習生の皆さんにも、「日本にきてよかった」と思っ



実習生の派遣前教育の様子を視察

今回の視察で、ゼロからミャンマーで事業を立ち上げてビジネスを行っていくことは並大抵のことではないと改めて感じるが、ミャンマー自身も変化していき、そしてヤンゴンと姉妹都市である福岡市との接点は今後ますます強くなっていくであろう。協力企業との提携や近隣国からの展開など、様々な選択肢がある中で今回繫いだ縁をきっかけに様々な形で企業のミャンマー進出支援を行っていききたい。

平成29年

福岡貿易会 年末交流会を 開催



昨年12月13日に、ホテルニューオータニ博多において恒例の福岡貿易会年末講演会・交流会を開催した。今年も外国公館や国や官公庁各機関の来賓方を含め、150名を超える方々に参加頂きました。

まず第一部の講演会では公益財団法人国際交流センター執行理事 毛受敏浩氏をお招きし「人口激減時代の最終選択－移民受入の是非を問う！」と題してご講演を頂いた。人口減・少子高齢化が引き続き問題となる中、毛受氏はメディアなどで積極的に「移民受入」に向けた提言をされています。

講演では、政府が移民受入以外の方策を模索する中、女性には出産人数増加と同時に女性の社会進出なども求められ、既存の政策による人口増加は容易ではないということを述べられました。

また、短期的な人材不足解消を目的とした「実質的な移民」は激増しており、それに対して定住化などを含めた移民政策をとらないことで、問題が膨らんでいくということを繰り返し述べられたほか、毛受氏はむしろ、地域社会の担い手として外国人を活用し、活力としていくことを提言されました。

引き続き開催された交流会では、土屋会長のご挨拶から始まり、ご来賓からは福岡市貞刈副市長、九州経済産業局国際部 伊集院部長から御来賓のご挨拶を頂きました。また新たに入会された企業3社に壇上で自社紹介をいただいたほか、参加会員方々皆さま交流を深め、最後まで盛況のうちに終えることができました。



毛受氏による講演



多くの会員、関係方参加により盛況となりました。

2017年

九州経済界自貿区訪中団 参加レポート

甲斐 敏洋

2012年の尖閣列島国有化以来、ぎすぎすしてきた日中間も今年2017年、習近平中国国家主席と安倍首相の会談等少しづつ変化が見えてきている。日中国交45周年を記念して、「九州経済業界中国自貿区（自由貿易試験区）訪中団」が九州中資企業協会（江蘇省中小企業日本代表処会長・涂家飛）主催、中国駐福岡総領事館後援のもと計画され、今年10月29日から11月3日の日程で、中国の瀋陽、大連、武漢を訪問した。訪問団は団長福岡貿易会専務理事・甲斐他メンバーは金融・証券・製造・貿易・物流関係企業・団体と多岐にわたった。



今回中国訪問地

【今回の訪中団の目的】

物づくり大国から自前の技術開発を伴った国づくりに舵を切った中国政府は、「貿易や投資などの規制緩和、モノ・カネの流れの自由化」を進める実験場「自由貿易試験区」を、2013年上海浦東地区に設定、2015年天津市、広東省、福建省の3ヶ所に、2016年8月新たに遼寧省、浙江省、河南省、湖北省、重慶市、四川省、陝西省の7ヶ所と広げてきている。今回上記自由貿易試験区の中から新たに設定された遼寧省（瀋陽市・大連市）、湖北省（武漢市）の自貿区視察を通して、新たな中国での事業展開を探ることである。

【各視察先の概要】

1 遼寧自由貿易試験区

「遼寧自由貿易試験区」は瀋陽エリア、營口エリア、大連エリアの3地区で構成されているが今回瀋陽地区と大連地区2エリアを訪問視察した。



武漢発着「一带一路」鉄道ルート図

1) 瀋陽市

東北地方の経済・文化・交通の中心地であり、重工業地帯として繁栄してきた瀋陽は、中国政府による沿岸部開発、西部地区開発に遅れを取ってきた。瀋陽市は7年ぶりの訪問であったが、自由貿易試験区に名を借りての広範囲な都市開発が進められているという感を受けた。港は營口、大連のドライドッグ、内陸デポの機能とならざるを得ないが、東北地方最大の空港を有していること、また、「一带一路」構想における一つのルート（モンゴル経由ロケットルグムまで繋がる鉄道網）の拠点となっていることから、優位性も併せ持つ。企業登録がワンストップで簡便となり、平成29年4月10日以降瀋陽エリアの登録企業数は11,415社で、その内、外資登録企業は97社（日系企業6社）であり、外資企業による投資は未だ少ない。国内登録企業の1/3は市内、1/3は省内、



瀋陽市副市長表敬訪問



瀋陽市政府訪問

1/3は国内の企業となっている。登録資本金の払込期間に制限がないことも、登録企業数の多さの一因と思われる。瀋陽から大連へは新幹線で移動したが、旧満州鉄道時代の東京駅を模した駅も近く建て替えられるとのことであった。

2) 大連市

大連エリアは、3エリアの試験区で最大面積を有し、全て大連市金普新区内に設置されている。従前の保税区や開発区に進出している企業に対する優遇策は、そのまま継承されるとのこと、且つ自由貿易試験区の中では従来の職種以外の事業展開が可能であるとのこと、一歩進んだ自由貿易試験区の感を受けた。特に大連市には福岡・九州企業の進出も多く、福岡市は福岡大連未来委員会が、北九州市は姉妹都市締結と非常に距離的にも、心情的にも近い密接な関係であり、これからは製造・貿易・物流といった分野に限らず、サービス産業をはじめとした新しいビジネスの芽、新しい交流、新しいステージが生まれてくるであろうことを確信した。

又大連市の重要産業の一つである大連港を運営管理する「大連港集団大連港集団有限公司」を訪れ、意見交換を行った。



大連自由貿易試験区視察

2 湖北省 自由貿易試験区 武漢エリア

最後の訪問地武漢市は湖北省の省都として、古くは三国志の時代以前から栄え、地理的に東に上海市、北に北京市、南に広州市、西に重慶市と約1,000kmの範囲内に位置し、飛行機、鉄道、高速道路網の充実から中部地区の交通・物流拠点としての重要性は高い。湖北省試験区は、武漢エリア(約72km²)、襄陽エリア(約22km²)、宜昌エリア(約28km²)から構成されているが、今回は武漢エリ

アの東湖地区と西湖地区の2ヶ所を訪問した。東湖地区の高新区では「ハイテク」「バイオ」「サービス」「総合保税」といった新しいイノベーションがすでに進められており、西湖地区の臨港経済技術開発区・総合保税地区では特に中国と中央アジア・ロシア・欧州をつなぐ一帯一路の鉄道の基地を視察した。9月にカザフスタン鉄道の物流基地を視察したこともあり、一帯一路の全体像を確認できた。又武漢市は、北京上海に次いで大学教育機関が充実しており、必然的に高度人材が豊富なことが武漢イノベーション推進のもとになると思われた。今まで福岡の企業・行政にとってなじみの薄い土地であったが、新しい事業展開の芽が期待できる都市であると思われた。武漢の概要・歴史・文化・産業については最後に少し紹介をしたい。

【視察の所感・感想】

- 1) 中国政府の上海自由貿易試験区導入以来新しいビジネスチャンスを探る目的で2015年3月上海浦東地区、2016年3月広東省、深圳・蛇口、広州・南沙地区、11月重慶两江新区と西永保税区を視察してきたが、そこでは保税区で海外からの輸入品の展示と越境ECサイトでの販売を行うビジネスモデルへの取組が目立っていた。今回瀋陽、大連、武漢の実態を視察し、一番感じたことは、物づくり大国から、自前の技術を持った技術大国への転換に向けて物凄い規模とスピードをもって進められている事であった。従来の「貿易自由化、モノ・カネの自由化」から「企業に限らずに政府のイノベーションの推進も目指しており」「貿易・金融・投資を国際ルールと連動させる仕組みづくりの実験」等々を目指していることが感じられた。
- 2) 実施に当たっては「制度の簡素化」、「体制の簡素化」を共通項としているが、「上海=金融センター」、「天津市=サービス貿易・オフショア金融の集積地」「広東省=香港マカオとの経済一体化推進」「福建省・アモイ市=台湾との経済交流推進」「重慶市=ハイテク産業の振興」「浙江省・舟山港=海運業の拠点」「瀋陽=東北地方の中心」、「大連=大連港の海運、新たな事業展開」、「武漢=内陸貿易の拠点・優秀な人材」といったように、その地域の特徴を活かした発展を目指し模索している。
- 3) 改革開放以来、中国政府は開発区、高新区、保税区、物流園区、物流中心等々各種特区を設定し

てきたが、「試験区」と従来の特区との相違点、優位点、効果はまだ明確には表れてきていない。又市場参入を禁じた業種を列挙する「ネガティブリスト」の職種が徐々に減らされてきているが、為替の自由化、インターネットとのアクセス規制(Facebook,YouTube等)等の規制緩和にはまだまだ時間がかかると思われる。自貿区の取組と一帯一路政策は根底で中華の回復で連動しており、日本としてはその活動・活力を取込むとともに注視していかなくてはならない。

【参考・武漢市】

- 武漢市は人口1076万人を抱え、揚子江中流域の国家中心都市の一つで、湖北省の省都であり、中国中部地域における経済、金融、貿易、教育、情報通信のビジネスの中心である。中国国内、世界各国から多くの企業や工場が集まっており、最近では消費地としても海外の大型スーパーマーケットの進出が相次ぎ、今後もグローバルビジネスの多様化が期待されている。
- 地理的には長江とその支流漢江を挟んで武昌、漢陽、漢口からなり、江城の別称がある。又「百湖の市」とも呼ばれ、市内で数多くの湖が散見され、水域面積は全市面積の約四分の一を占める。
- 文化的には古く3800年の歴史を有しており、殷の遺跡も残り周辺には三国志に関わる遺構特に武漢から100kmには「赤壁の戦い」跡は現在武漢観光スポットの一つとして有名である。又呉の孫権が魏、蜀との戦いに備えて物見櫓として建設したとされる「黄鹤楼」と詩仙李白の漢詩は有名であり、皆さんも高校時代漢文の時間で見覚えがあると思う。「故人西辞黄鹤楼、烟花三月下揚州、孤帆遠影碧空盡、唯見長江天際流」(古くからの友人(孟浩然)は、西にある黄鹤楼に



別れを告げ、烟花三月揚州に下る、孤帆の遠影、碧空につき、惟だ見る長江の天際に流るるを)

○武漢の産業

武漢の産業は鉄鋼・ハイテク・自動車・機械の四つが柱となっており、工業企業は殆ど市街から離れた経済開発区に置かれ、国家級開発区は「武漢東湖国家高新技术開発区」「武漢臨空経済技術開發区」「武漢経済技術開發区」と3つある。そして開発区で製造されたものは漢南区にある武漢港から出荷されている。

- 武漢経済技術開發区は自動車産業が主で「中国車都」とも呼ばれている。本田技研工業、日産自動車、ショーワ、TSテック、日本特殊塗装などの日系企業大手も進出している。
- 武漢東湖高新技术産業開發区は「中国光谷」とも呼ばれ、光電子産業、医薬研究開発・製造、生物工学などハイテク産業がメインで、特に光ファイバー・ケーブルの生産規模は世界一となり、市場シェアは11年連続で50%を超える。NEC、パナソックなど日系企業も進出している。
- 武漢臨空経済技術開發は武漢天河国際区工に隣接し、飛行機修理・メンテナンス、航空サービス業、航空物流・運輸業が主要産業である。



武漢・東湖地区高新区



武漢、一帯一路鉄道基地

セミナー等開催報告

輸入業務迅速化セミナー

- <日 時> 11月15日(水) 14:00～16:30
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室
 <講師> 松浦 遼 氏
 <内容> I 輸入の流れ 他法令による許認可の取得
 II 事例研究1 (松茸の輸入)
 III 事例研究2 (アパレル輸入)



参加者のことば

- 具体例に沿った説明でイメージしやすかった。トレードタームズを細かく解説してくれて分かりやすかった。
- 学び直しのために参加させていただいた。これまで受講した講師の方と違い、実務経験から得た知識をお聞かせ下さったところが興味深く面白かった。船社の戦略を読み解くくだりも納得感があった。有難うございました。

『人口減少時代の日本の最終選択—移民の受け入れは是か否か?』(年末会員交流会)

- <日 時> 12月7日(木) 17:00～18:00
 <ところ> ホテルニューオータニ博多 3階 「芙蓉 雅」
 <講師> 公益財団法人日本国際交流センター 執行理事 毛受 敏浩 氏



貿易実務講座応用編 三国間貿易の実務と応用

- <日 時> 12月13日(水) 9:30～16:30
 <ところ> 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
 <講師> 国際法務㈱代表取締役 中矢 一虎 氏
 <内容> 仲介貿易三国間取引を行う理由と業務のポイント、実践 三国間・仲介貿易
 仲介貿易を除く三国間取引代理、関税定率表別表、EPAと外国間の自由貿易協定(中国-アセアン)

参加者のことば

- インボイスの切替、B/Lの切替のところで、多くの事例を用いて説明いただきわかりやすかった。EPAでも難解だったが平易な言葉を使っていたいただき理解できた。
- 三国間貿易時に外為法を意識していない企業がままあるという点、また米国、カナダは原産地証明を自己で作成するケースも多いという点が勉強になりました。



英文契約書講座 基礎編

- <日 時> 12月14日(木) 9:30～16:30
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室
 <講師> 国際法務㈱代表取締役 中矢 一虎 氏
 <テーマ> 貿易基本契約書の重要キーワード、英文契約書を読み解くコツ、代理店契約書と販売店契約、外国会社側作成販売店契約の問題点指摘と修正、代理店契約解消事例

参加者のことば

- ひな形やサンプルを見ただけではわからない条項の意味や目的が理解でき、大変有意義だった。
- 表面上のことではなく、仲裁のこと、代理店、販売店のことなど内容も含めて広く話をして下さり、ためになった。

夜間講座 ビジネス英会話講座中級編

- <日 時> 9月7日～12月14日 毎週水曜日 19:00～20:30 全14回
 <ところ> 福岡貿易会 事務所
 <講師> Mr. Anthony Seymour
 <テーマ> 会議での会話、ネットワーク、プレゼンテーション、採用面接、時間の管理、ディスカッション



参加者のことば

- テキストをなぞるだけでなく、そこから派生した事例を交えたたくさんの情報やアドバイスがあって毎回とても充実した講座でした。
- 授業内容が固くないし、テキストだけではなくグループワークが多かったのが良かった。またとても明るい雰囲気でした。仕事のつかれも吹っ飛ばす空間でした。

夜間講座 初めての中国語会話(後期)

- <日 時> 9月13日～12月20日 毎週水曜日 19:00～20:30 全15回
 <ところ> 福岡貿易会事務所
 <講師> 中国語教室—語学EIWA 代表 李 岩 氏
 <テーマ> 注文する、値段交渉、場所・希望・行き方・相手の都合・条件を尋ねる、比較する



参加者のことば

- 全て満足。特に正しく答えるまで許してもらえない中国語での質問タイムの緊張感が癖になりました。
- 毎回最初に行う質疑応答で無理にでも発音できて良かった。
- 初めてのグルプレッスンだったので不安でしたが、一人ひとり丁寧に教えていただき、とても良かったです。

夜間講座 福貿グローバル塾

- <日 時> 9月17日～12月19日 毎週火曜日 19:00～20:45 全10回
 <ところ> 福岡貿易会事務所
 <内容>

- 第1回 グローバル化された時代に活躍できる人材とは? 4PSD Agencies代表 山口 義嗣 氏
 第2回 海外ビジネスの大前提 経営判断に必須の情報の取捨選択法 (株)ホスピタブル代表取締役 松清 一平 氏
 第3回 海外取引スキル入門 ～シンガポール事例をもとに進める～ ていすとビジネスサービス代表 飯盛 敦博 氏
 第4回 グローバルスタートアップ 海外ビジネスに必要なノウハウ頭一つ出るコミュニケーションの妙技
 らいねん合同会社代表 牧之瀬英央 氏
 第5回 信頼できる国際ビジネス人脈の構築方法 J-Tech Transfer & Trading代表 小島 尚貴 氏



- 第6回 グローバル人材の必需品 ～事例に学ぶ、勝つための国際法務と知財の基礎知識～
 明倫国際法律事務所代表パートナー 田中 雅敏 氏 / NCBリサーチ&コンサルティング 佐々木治彦 氏
 第7回 外国人人材の活用に伴う誤解とリスクを整理する (株)ホスピタブル代表取締役 松清 一平 氏
 第8回 海外企業が日本製品を買いたくなるポイントを知ろう J-Tech Transfer & Trading代表 小島 尚貴 氏
 第9回 初対面で外国人のハートを掴むには? 異文化型コミュニケーション術ワークショップ型授業
 らいねん合同会社代表 牧之瀬英央 氏
 第10回 新しい貿易条約・制度を上手く利用する海外営業・海外調達の極意 国際法務㈱代表取締役 中矢 一虎 氏
 90秒ピッチ実践 各受講者



参加者のことば

- 色々な講師から色々なお話を伺い毎回新しい気付きをいただけたので大満足です。また機会があれば参加したいです。
- 毎回刺激を受けました。福岡だけでなく全国を見てもこんな充実した塾はないのではないのでしょうか。
- 今回も本当勉強になりました。先生や参加者の皆さんと関わることで自分の視野の狭さや、世の中の大きな動きなど、気づくことが本当に多くありました。いますぐ大きなことは出来ませんが、積み重ねていって、いつか仲間たちと自分達のビジネスで海外に出て行きたいと思っています。もし第3回があったら必ずまた参加いたします。また今回いただいた貴重なつながりを大切に、活かしていきます。本当に有難うございました。
- コスパが抜群に良いセミナーで感激しました。事務局の方も色々ご心配、ご尽力いただき大変感謝しています。IDEAがあるとすれば、福岡で活躍されている外国人の方からお話を聞ける機会があれば、英語でも結構ですのでアレンジいただけたら有難いと思います。

フィンランドには脱帽です

コンサル天狗 (牧之瀬 英央)

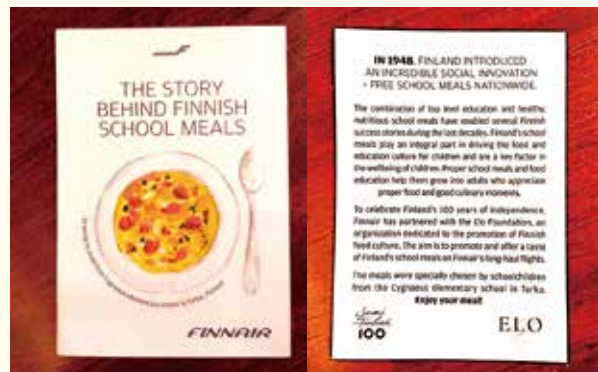
11月のこと。海外づくりの日程ですが、海外ビジネスを考えるうえではネタ探しの機会です。ネタとは商材だけでなく、ビジネスモデルや文化も含まれます。飛行機の中で仕入れた？ネタをご紹介します。

航空各社がより多くの乗客を取り込もうと激戦を繰り広げています。国内・短距離国際線においては、少なからずLCCが参入しており、価格競争に晒されるなか、コストを下げずに付加価値を訴求しなくてはならないのが現状です。その中でフィンランド航空のビジネスモデルは航空業界のみならず、参考になることが多いと常日頃感じています。

かつて北欧の航空会社といえばスカンジナビア航空。フィンランドはその仲間に入らないあまのじゃくな立場でした。ところが気が付けば、人口550万人ほどの北欧の小国が成田・名古屋・関空への定期路線を持ち、夏場の福岡路線を含めれば4空港へ就航しているのは驚くべきことです。私が一乗客として見える(感じる)フィンランド航空の戦略・戦術は次のようなものです。

1. 日本に一番近いヨーロッパというスローガンで便利・身近感を作り上げた。その結果、かつてはロンドン、パリ、フランクフルト、アムステルダムと分散していた日本から欧州へいく際のハブ空港の役割を十分に担うこととなった(イメージだけではなく、日本便に合わせた欧州内フライトを提供している)
2. フィンランドといえばムーミン、そしてマリメッコ。このイメージを積極的に活用した。かつては北欧旅行でもあまり注目されなかったフィンランドを北欧旅行の主要目的地に押し上げただけでなく、フィンランドとフィンランド航空のイメージを重複させ、一気にブランド化を図った。

今回の旅では機内食に驚かせられました。機内食は給食をモチーフにしたものだったので。よくよく考えれば機内食なんて給食みた



いなもの。と、食べている間にトレーに一枚のカードがあるのをふと見つけました。そのカードに書かれていたの内容は以下の通りです。

1948年、フィンランドでは素晴らしい社会的なイノベーションが導入されました！学校での給食の無料提供です。高い教育レベルと栄養価の高い健康的な給食の組み合わせは、フィンランドでの数多くのサクセスストーリーをもたらしました。給食は食と教育の文化を一体化させ、子供の健康のために重要な役割を果たしています。適切な給食と食に対する教育は、食や料理に対する敬意を持つ大人となるための一助となっています。

フィンランドの100周年独立記念の年に当たり、フィンランドの給食の味を機内で味わっていただくこととしました。給食のメニューは、小学生によって選ばれたものです。

機内食を提供する中で、これだけの思いや文化を伝える。(かつ低コスト)。日本の航空会社は〇〇シェフプロデュースがせいぜいです。日本ではそれっぽい蘊蓄を語りながらも実は文化はおろか、ファッションの域を超えていないのではないかと、思いながら、機内給食に舌鼓を打ちました。



新会員の紹介

ジャパンテックリンク株式会社 (JTL) Japan Tech Link Co., Ltd.

代表者：代表取締役 張 琳
所在地：〒803-0814 福岡県北九州市小倉北区大手町14番1-1906
TEL：093-383-7822 FAX：050-3737-5013
MAIL：info@jtechlink.co.jp
URL：https://www.jtechlink.co.jp/



主要業務：
・製品の各国の基準・標準、国際規格コンサルティング
・製品の各種認証取得・評価試験におけるコンサルティング
・適用規格・基準調査、評価試験のご提案
・量産後の問題分析のご相談
・海外マーケティング、販路などのコンサルティング
・国際的人材育成、海外留学、就職サポート等のサービスのご提供
JTL (子会社：STL&校通商) は、顧客へワンストップサービスを提供します。世界中で広く評価され、認知されているブランド認証機関を選択して頂き、グローバル市場へのアクセスを効率化し、コストと時間の削減に貢献！

当社の特色：
社会への貢献：1. 企業のグローバル進出の壁を無くす、事前にターゲット市場の要求事項をクリアする。
2. 製品開発の計画段階からターゲット市場の調査により、自社保有していない試験項目を明確にし、外部から補充する。
3. 地域依存性をなくし、日本国内に備えてない第三者認証項目、認証機関を海外より補充する。
4. 国際的人材育成を提供するため、企業が将来的求める人材像のニーズに備えて人材資源を先か後か準備する。

JTLの理念
・独自のデータベースにより、お客様へ迅速に、かつ最適なソリューションを提供する。
・的確な初期コンサルティングと有益なアドバイスを継続的に提供し、企業経営全体の付加価値を高める。
・JTLグループは教育、ビジネストレーニング、職業訓練の多様なサービスを提供する。
提供しているビジネスパートナー：
SGS(スイス)、TUV SUD,DEKRA (ドイツ)、Intertek(UK)、BV (フランス)、UL (米国)、CQC(中国)第三者認証機関
上記代表的な機関は独自得意分野の試験センターとエンジニアを保有している。
この業界の資源を統合したデータベースをJTLが保有し、顧客へ最適なソリューションを提供する。

Planetway Corporation

代表者：代表取締役CEO/ファウンダー 平尾 憲映
所在地：2033 Gateway Place, 5th Floor, San Jose, California, 95110, USA(米国本社)
〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-7-1 霞ヶ関東急ビル4F(日本支社)

TEL：03-4405-4395
MAIL：info@pwlvc.com
URL：http://www.pwlvc.com/jp

主要業務：
世界200カ国で利用可能なグローバル通信サービスを提供中。また、多様な領域(IoT/AIなど)の新規事業創出に特化したプラットフォーム「avenue」



を開発中です。「avenue」のコアテクノロジーであるCross-Industry Data-Access (複数業界間でのデータ連携) に特化した「avenue-cross」を展開しています。



当社の特色：
世界有数のコアメンバー(シリアルアントレプレナー、元MySQL共同開発者、NATOサイバーテロ対策機構シニアフェローなど)が参画するグローバルスタートアップです。技術・事業開発が融合した、日本・エストニアのハイブリットカンパニーです。データは、組織でなく、個人に帰属すべきであり、個人が自身の意思でデータを安全かつ自由に公開していける、世の中の到来として「インディビジュアル・データドリブン・ソーシャライズドイノベーション」というビジョン掲げています。

VCI工業株式会社

代表者：代表取締役社長 國分 信徳
所在地：〒830-0047 福岡県久留米市津福本町2320-16
TEL：0942-35-5555 FAX：0942-35-5558
MAIL：info@vcjapan.jp
URL：http://www.vcjapan.jp

主要業務：
・ベリカバー (ラーメン出前用ゴム付カバー)
・ホテルアメニティグッズ
・特注名入れバッグ(紙袋・不織布バッグ・エコバッグ)
・その他 販促品/雑貨などの海外工場での企画製造及び貿易

当社の特色：
1962年、ベリカバー(ラーメン出前用ゴム付カバー)の生産販売を開始してから55年。絶えず「包む」をコンセプトに取扱商品の拡大に努めてまいりました。時流の変化に合わせて柔軟な物流・ITシステムを構築することにより、お客様満足度をより向上させるべく日々の業務に取り組んでおります。現在は専門デザイナーと組んで、インバウンド向けの商品企画を重点的に行ってまいります。イベントなどで必要な販促品・バッグなど作成したい方いらっしゃいましたら、弊社まで遠慮なくお問い合わせください。



J-Tech Transfer and Trading

代表者：代表 小島 尚貴
所在地：〒812-0033 福岡市博多区大博町5-27-1105
サービス大博通り1105
TEL：090-6299-9791
MAIL：jtech.tt@gmail.com
URL：https://www.j-tube-by-jtechtt.com/

主要業務：
8ヶ国語を操る語学力と約80品目を扱ってきた貿易経験、各国に広がる販路を駆使し、全国の過疎地から優良商品を発掘して、外国語動画とwebサイト「J-Tube」を通じてアジア、中東、欧州、アフリカに輸出。

当社の特色：
地方の中小企業の海外展開と、海外バイヤーの日本製品開拓を阻んできた①語学力、②貿易実務経験、③国際バイヤー人脈という三つの障壁を、IT、動画、物流知識を駆使して一挙に取り除き、「バリアフリー化」するJ-Tubeで、海外展開を「高い、危ない、難しい」から「低コスト、ハイスピード、高利益、低リスクのチャンス」に変え、海外売上確保のチャンスを全国に広げ、過疎地に外貨の雨を降らせるのが弊社の使命です。



Hi, there, Folks! How is your business going?
Don't you think time flies like an arrow? It is the new year of 2018. I wish you all good health and great business success in 2018 and afterwards. 貿易ビジネスも2018年は「流れ」として如何展開してゆくでしょうか?

さて輸出入初心者の方でよくしがちなミスを取り上げます:
【海外からの輸入或いは海外への輸出】の場合で、カタログやサンプル/プロトタイプ、更には、加工貿易等で原材料類を【無償にて】仕向け先に送付する場合もあるでしょう。その場合は、①全ての品目は1つも漏れなく「インボイス」と「パッキングリスト」に記載する必要があります。

例えば、無料で送付するから別に申告をする事は必要ない、と勝手に判断し「記載漏れ」になると面倒な事になります。その事案が多いと聞きます。

②上記に関連して、仮に、無料のサンプル品や無料のプロトタイプ品であっても、全ての品目でその数量と価格を算定して書類に記述する必要があります。これは輸出入企業の義務です。省略は一切出来ません。外国から小口でサンプルを、又は、貨物を輸入する場合、この品目はサンプルだからと云って所定の書類に品目・数量・価格を書かないでいると、検査時に貨物の箱等を全て検査され、当該の全品目の数量と価格

を算定し、修正申告をしなければなりません。ととても手間のかかる事に陥ります。お気をつけ下さいませ。

【無償】で送付先の企業にカタログ類・サンプルやプロトタイプ類を輸出する場合は、その「インボイス」には【No Commercial Value】(無償)と記載をします。「商業的な価値は無い」の意味。なお大事な事ですが、【無償品でも所定の金額】を記載する必要があります。所定の金額=「本来の売値」です。

輸入であれば、無償品で輸出者と輸入者間に価格の決定(つまり取引価格)が為されていない場合は、『関税定率法』に規定の計算方法があり、それを参考に算定を致します。たとえ無償提供でも、外国貨物の輸入には、原則として、関税が掛かる為です。但し、或る特定条件の場合、無償品に対して、関税を課しません。例えば、展示会に出展する際に、展示で用いる製品サンプルの輸出入などの場合です。ですが、これであってもその品目の売値を所定の書類に記載する必要があります。

今回の最後に私見ですが、輸出取引の成否のカギは【毎日のコレポン「daily correspondence」】にあります。皆様、積極的に海外企業と連絡を密にして、意思疎通を図る取り組みましょう!

Mutual daily communication comes first. ですね。

Thanks for reading. 貿易英語やビジネス英語でのお尋ねは何なりと:fuku@eos.ocn.ne.jpへどうぞ!

Presented by Ken Suetsugu/末次通訳事務所

福岡貿易会からのお知らせ

今後開催予定のセミナー

※予定につき変更の場合があります。会員以外の方の受講も可能です。

○ 貿易保険 & 海外与信管理入門セミナー

※福岡商工会議所・Food EXPO Kyushu実行委員会と共催

【日時】 1月25日(木) 14:00~16:50

【会場】 福岡商工会議所ビル8階 801会議室

【受講料】 無料

【内容】

第1部:「貿易保険について」14:00~15:00

日本貿易保険大阪支店 営業グループ 主任 斉藤 健佑 氏

第2部:「海外与信管理入門(中国・ASEAN)」15:10~16:30

株式会社クレディセイフ企業情報

代表取締役 牧野 和彦 氏

※国際関係支援機関からのご案内 16:30~16:50

「ジェトロの主な海外展開支援サービス」

ジェトロ福岡 新輸出大国コンシェルジュ・アドバイザー

鍋山 陽一 氏

「福岡商工会議所の取組みについて」

福岡商工会議所 産業振興グループ長

田中 大輔 氏

○ 海外展開リスク対策 & 取扱説明書の重要性セミナー

※福岡商工会議所・Food EXPO Kyushu実行委員会と共催

【日時】 3月2日(金) 14:00~16:45

【会場】 福岡商工会議所ビル4階 404-405会議室

【受講料】 無料

【内容】

第1部:「東南アジアでのビジネス展開におけるリスクとその対策」14:00~15:10

東京海上日動火災保険株式会社企業営業開発部日系グローバル推進室

グローバル営業グループ次長 塩田 徹也 氏

※商工会議所様提携の団体PL・知財保険制度について

東京海上日動火災保険株式会社福岡支店営業第一課課長代理

山沢 耕一 氏

第2部:「輸出製品の取扱説明書の重要性」15:20~16:30

株式会社クレストック国際法令規格アドバイザー 清水 義孝 氏

第3部:「商工会議所から海外事業展開支援について」16:30~16:45

福岡商工会議所 産業振興グループ長 田中 大輔 氏

○ 国際宅配で始める、超簡単!海外通販ビジネス

【日時】 3月8日(木) 14:00~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

【講師】 J-Tech Transfer&Trading 代表 小島 尚貴 氏

FedEx

【受講料】 無料

○ 税関セミナー

【日時】 3月14日(水) 14:00~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

【講師】 門司税関福岡空港税関支署 支署長 深山 清文 氏

門司税関業務部

【受講料】 無料

【内容】 福岡空港税関支署の概況、EPA原産地規則について

<夜間講座>

○ 誰でも「マルチリンガル」になれる外国語学習法

【日時】 1月30日(火)・2月2日(金) 19:00~21:00

【会場】 福岡貿易会事務所

【講師】 J-Tech Transfer and Trading 代表 小島 尚貴 氏

【内容】 「忘れるのが難しい学習法」、「記憶力に頼らない学習法」を詳しく解説する実践型講座

【受講料】 福岡貿易会会員 ¥5,000 / 非会員 ¥10,000

○ ビジネス中国語会話上級編

【日時】 2月1日~3月22日 毎週木曜日 19:00~20:30 全8回

【会場】 福岡貿易会事務所

【講師】 北京・ニーハオ中国語センター 代表 蔣 晶 氏

【内容】 ビジネスレベルの中国語を学び、ゲストスピーカーを囲んで中国ビジネス最新事情を語る

【受講料】 福岡貿易会会員 ¥14,000 / 非会員 ¥21,000

○ ビジネス英会話上級編

【日時】 2月6日~3月27日 毎週火曜日 19:00~20:30 全8回

【会場】 福岡貿易会事務所

【講師】 Ms. Eileen Kae Abrio Relao

【内容】 海外取引に必要なコミュニケーションを理解し、商談や交渉を有利に進める英会話力を

【受講料】 福岡貿易会会員 ¥16,000 / 非会員 ¥24,000

●発行/ 公益社団法人福岡貿易会

☎812-0011 福岡市博多区博多駅前二丁目9番28号7階

☎ 092 (452) 0707

FAX 092 (452) 0700

●発行日/平成30年1月30日

●印刷/株式会社西日本高速印刷